



南三小

教 育 目 標
よく考える子ども
心も体もたくましい子ども
仲良く助けあう子ども

10月号

町田市立南第三小学校
令和 8年 9月 30日
校長 工藤 成

URL <https://www11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1310182>

「自分で考え、仲間とともに学び合う子」を目指して ～国語の「問いづくり」を通した授業の工夫～

研究主任 松清 のぞみ

本校では昨年度より、子どもたちの「自分で考える力」と「仲間とともに学び合う力」を育むため、国語科の「読むこと」を中心とした校内研究に取り組んでいます。

本校の子どもたちは読書好きな子が多く、日頃からすすんで本を手取る様子が見られます。一方で、授業の中で文章を詳しく読み解いたり、学習課題に対して粘り強く考え抜いたりすることには、少し苦手意識が見られていました。そこで着目したのが、子どもたち自身が文章に対して「なぜ?」「どうして?」と自ら疑問(＝問い)をもち、それを解決していく過程を大切にしたい授業づくりです。



これまでの授業は、先生から出された問いに答える形が中心になりがちでした。しかし、子どもたちが「なぜこの人物はこんな行動をしたのだろう?」、「どこで気持ちが変わったのかな?」などと自ら問いをもつことで、学習への向き合い方が大きく変わります。自分たちの手で生み出した問いだからこそ、「答えを突き止めたい」という主体性が生まれ、文章の叙述に注目しながら粘り強く読み解こうとする姿につながるのです。

また、自分の問いや考えをもち寄り、友達と話し合う「対話」の時間も大切にしています。自分とは違う見方や考え方に触れることで、「そんな考え方もあったんだ!」「たしかにここに書いてあるね。」と自分の読みを広げ、一人では届かない深い学びへとつながっていきます。この「ともに学び合う」姿勢は、国語の読解力を高めるだけでなく、他者を尊重する心や協調性、コミュニケーション能力を育む上でも欠かせません。

このような取り組みを通して、単に知識を覚えるだけでなく、自ら考え、友達と協力して課題を乗り越える粘り強さを育ててまいります。ご家庭でもぜひ「今日のお話、どんなことが面白かった?」とお子様の声に耳を傾けてみてください。

読書活動の充実を目指して

学力向上委員長 前川 佳菜子

本校では学習の基盤となる資質・能力を育成することを目指し、読書活動の充実を図っています。通年で行っている「本の世界」では、学期毎に児童自ら読書に対する目標を決め、達成に向けて読書を進めています。自分が読んだ本を書き溜めていくことで、日々の積み重ねが可視化され、目標達成に向けての意欲が高まったり、自己理解や成長にも繋がったりします。また、学期に1回、3週間の期間を設けて行っているのが、読書週間です。図書委員会を中心に本を好きになってもらえるような企画を考え、実践しています。各学年に合った本を選定して行う読み聞かせ、おすすめの本の紹介、体育館にマットを敷いて、普段とは違う環境で本に親しむことができる「ごろごろ読書」などの活動を行っています。1学期の読書週間では、たくさんの児童が企画に参加し、充実した時間を過ごすことができました。



たくさんの本に親しむことで、様々な世界を知ることができます。今まで自分が知らなかった、見たことも聞いたこともなかった世界に没入することができます。自分の言葉と表現力を豊かにし、想像力や思いやりの心を育むことにも繋がります。

また、「読書の秋」と言われるように、少しずつ読書をするのに最適な季節になります。この言葉は約1200年前の中国の詩にある「涼しい秋の夜は、あかりをつけて本を読むのに最高の季節だ」という一説が由来だと言われています。今も昔も、豊かな活字の世界を楽しんでいるのです。ぜひこれからの季節、たくさんの本と出会い、素敵な1冊を見つけてほしいです。

これからも本好き・読書好きな児童の育成を目指して読書活動の充実を目指してまいります。ぜひご家庭でも、一緒に本を読んだり、読書について話題にしてみたりしてください。